

文化の窓

「近代日本の陶芸」展

会期 五月二十一日(土)から
六月二十六日(日)まで
会場 福島県立美術館

日本のやきものは、人々の生活と密接に關する長い歴史を持っています。それは、日本文化全体に及ぼした大陸文化の大きな影響下にありながら、独自の展開を遂



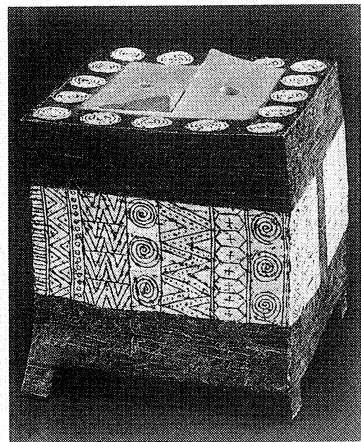
加藤 唐九郎「志野茶碗・紫匂」昭和54年

講演会

「近代陶芸の巨匠たち」

講師 長谷部 満彦氏(美術史家)
日時 六月五日(日) 午後一時半
会場 県立美術館 講堂(無料)

鈴木 治「歩く子」昭和37年



げてきました。このような背景を持つ日本の陶芸は、明治以降新たな局面を迎えます。

明治に入って日本の美術が受けた西洋文化の影響は、陶芸の世界にも及び、制作者は、陶工としての意識から、ひとりの芸術家としての意識へと大きな変化を見せます。また、これを造形的な側面から眺めてみると、明治初期の西洋陶磁の影響、大正期に起った民芸運動、戦後の前衛陶芸など様々な潮流があり、今日では陶芸の領域そのものがますます拡大する方向にあります。

この展覧会は、五十六作家(団体も含む)の作品百六十点により、明治の初めから今日までの陶芸の展開を辿り、作家の造形意識と陶芸観の変遷を浮き彫りにするものです。

観覧料 一般・大学生 八〇〇円(六五〇円)

高校 生 六〇〇円(四五〇円)

小・中学生 四〇〇円(三〇〇円)

(一)内は二十名以上の団体料金

公開制作

「酒を使った日本画の技法」

講師 結城 天童氏(日本画家)
日時 六月十一日(土) 午後一時半
六月十二日(日) 午前十時半
午後三時半
会場 県立美術館実習室(入場無料)

休館日 毎週月曜日

夜間開館日 会期中の毎週金曜日

五月二十七日・六月三日・十日

・十七日・二十四日は午後八時

までご覧頂けます。
(入館は七時半まで)



富本 憲吉「色絵金銀彩飾壺」昭和28年